



駒澤会だより

第13号

(2009年12月15日)

駒澤大学駒澤会発行



莫動著

(動著すること莫れ)

駒澤大学学長
駒澤会名誉副会長
石井清純

本年は、夏の総選挙
における政権交代に

象徴されるように、長引く不況に、社会が大きな変革を求めた年でした。駒澤大学にとっても激動の年となりました。その中であって、駒澤会からの温かいご支援に、改めて感謝いたしております。

その激動の年も、すでに師走、さらに慌ただしさを増しております。12月といえば、禅宗各派においては、重要な修行の一つである、臘八摂心の開催される月です。この修行は禅宗独自のもので、12月1日から8日明け方まで、ひたすら坐り続けるもので、釈尊が七日七晩の坐禅の後に成道したという伝承にもとづいたものです。

この摂心が終わると、冬至を迎えます。もちろん、これは禅宗独自の行事ではありませんが、禅宗では、この節季に特別な意味を込めて説法を行います。

なぜこの日が特別なのか、それは、禅宗の特徴であるポジティブな現実把握の思考に由来しています。

冬至は、当然一年で一番昼間が短く、「暗い時間の多い日」です。ただ、この「一番暗い日」は、同時に「これから必ず明るくなる日」でもあります。この「明るさ」に眼を向けると、この日は、これから明るさの増すめでたい日ということになるのです。これを、「一陽来復(一すじの明るさが戻る)」と表現したりします。このような考え方は、中国で生まれたものですが、禅は、これを積極的に取り入れ、日々の充実した精神生活へと繋げていくのです。この前向きな価値転換が、禅の特徴です。

冬至がそうなら、では夏至はどうか、ということになりますが、こちらはこれで、明るさの極みなの

ですが、それを讚えることもしませんし、ましてや、「暗くなっていく」ことなどには全く触れません。そのような後ろ向きの発想は、初めから存在していないのです。

閑話休題、冬至に戻れば、この、明るさの戻りはじめる日にどのような心構えで臨むかが、そのあとの「陽」の広がりにつながっていくこととなります。

それを、中国の禅者、宏智正覚は、「莫動著(動著すること莫れ)」と表現しました。「動き回ってはいけない」という意味です。大きな転機であるからこそ、どっしりと構えて自らを見失わないようにせよ、という教えです。

道元禅師は、この宏智を「古仏」と賛嘆しますが、自身の冬至の説法で、この言葉を、「一すじの明るさをとこしなえに保ち、時に応じて喜びとして表現している(一陽、^{とこしな}えに至り、時に応じて慶祐たり)」と評しています。

つまり、宏智の言う「動くな」は、必要以上の大きな展開を望むことなく、一すじの明るさを維持継続させるべきことを意味しているというのです。そして、その維持こそが、その時その時の喜びとなるとしています。

人はどうしても、飛躍的な成長を期待します。特に、現在のような混沌とした状態においてはなおさらです。しかしそれを求めすぎると、自らを見失うことになる。そこに必要とされるのが、状況を見据えた冷静な判断と、それに基づいた持続可能な実践ということになります。

宏智正覚も道元禅師も、毎年、冬至の日に、このような思いを再確認しつつ、道場に集う修行僧達を策励し続けました。その心を「建学の理念」として受け継ぐ駒澤大学も、いま、この思いを胸に置いて歩み続けているところです。

最後に、同じ冬至上堂で道元禅師が語った言葉を借りて、結びとさせていただきます。

一陽佳節、伏惟尊候、起居万福。(一すじの明るさの表れためでたい日に、心から、皆さまの日々の生活すべてが幸せであることを願います)

駒澤会奨学金授与式

平成 21 年 7 月 21 日 (火) 12:20~

学部 2 年生以上：総額 500 万円 (一人 20 万円×25 名に支給)



授与式 (本部棟 5 階) 受給学生を前に、東條光雅学生部長より挨拶

本部棟 5 階会議室において、平成 21 年度駒澤会奨学金授与式が開催されました。

駒澤会からは、井上副会長と赤堀副会長が出席し、学生部からは東條学生部部長、北小路課長、石田係長が出席しました。

はじめに東條学生部部長より、駒澤会とはどのような方が集まり、どのような運営をしている会なのか、など説明がありました。在校生にとっては、卒業生の親の会の存在や駒澤会の日頃の活動はまだ少し縁遠いように思えるのかもしれませんが、どの学生も選考委員会により選ばれた、駒澤会奨学生にふさわしい学生たちです。駒澤会の存在を改めて理解していただき、奨学金を誇りに、進学や就職に対する目標をしっかりと実現してほしい

と思います。本年度新たに入会していただきました、賛助および維持会員の皆様にご報告するとともに、ご協力に対し改めて御礼申し上げます。

次に、本年度の奨学金受給生の中から、3 名をご紹介します。

平成 21 年度 奨学金受給学生の言葉



経営学部経営学科 2 年 綿 引 香 織

この度は、駒澤会の奨学生 25 名の中に選んで頂きありがとうございます。その喜びを感じるとともに大変光栄に思っております。

私は両親が苦しい家計の中で自分のためを思って高額な学費を払ってくれていると思うと授業ではひとつでも多くのことを吸収し、将来恩返ししなければいけないと思い日々勉学に励んでいます。学費以外ではなるべく両親に負担をかけないようにアルバイトもしており、一度しかない大学生活をより有意義なものにしたいという思いからサークルやゼミにも所属しています。そんな忙し

い日々の中で奨学生に選ばれたことは両親にも大変喜ばれましたし、私にとっても大きな自信となりました。また、奨学金を頂いたことが様々なことにチャレンジする原動力にもなり、この夏は議員インターンシップというものに参加しました。政治への関心が高まり一人の国民としての視野も広がったとともに社会経験も積むことができました。改めて浮き彫りになった自分の弱点をはじめ、ここで得たことを意識して今後の学生生活を過ごし、将来に活かしていきたいと思っています。さらに、議員さんが市民のために昼夜を問わず日々一生懸命に活動している姿をみて、自分ももっと頑張ってみようという刺激を受けました。

学生にとって多くのことにチャレンジするには時間的、経済的余裕が必要となります。駒澤会は長年にわたり活動されてきたとのことでこれからもその温かい思いを反映させ、より多くの直向きに頑張っている学生のためにご支援をいただけたらと思います。そして私は、本当に多くの方のご支援により勉学に打ち込めると思うと身が引き締まる思いです。この駒澤会奨学生に選ばれたという感謝の気持ちを忘れずにその自覚をもって自信と誇りを胸に日々頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



医療健康科学部2年 小 菅 正 嗣

この度は、駒澤会奨学生に選んで頂き、ありがとうございます。大変光栄に思うとともに、感謝しております。

私は診療放射線技術科学科に属しており、他の学科と比べ授業料が非常に高いため、家計への負担がとて心配でした。アルバイトをして少しでも親への負担をなくそうにも、学校が忙しく、あまりアルバイトをする暇がないという状況でした。そこで、駒澤会奨学金をホームページで知り、応募した

結果、採用が決まり、とても嬉しかったです。今、私は第1種放射線取扱主任者の資格を取ろうと思っており、来年の資格試験に向けての勉強を少しずつ始めています。しかし、学校での実験のレポート作成やテスト勉強をしながら放射線取扱主任者の勉強をすることはなかなか難しいものです。さらにアルバイトもしなくてはならないため、レポートとテストが重なっている時は正直つらいと感じてしまいます。このような状況の中、今回の駒澤会奨学金を受給することができたおかげでアルバイトの時間を少なくすることが可能となり、その分勉強時間を増やすことができました。心から駒澤会奨学金に感謝しております。

将来は、まだ細かいことは決めておりませんが、放射線技師として病院に勤めるつもりです。そのためには、まず国家試験に合格しなければなりません。また、医療従事者として人の命に関わる仕事をするため、医療従事者としての責任や人格も必要となっていきます。私は、放射線技師とは大変やりがいのある仕事だろうと思っております。これから学ばなければならないことは山ほどありますが、夢に向かって日々勉強に励むとともに人としてもっと成長していこうと思っております。



経済学部現代応用経済学科2年 阿 地 俊 寛

この度は駒澤会の奨学生に選んでいただき有難く思います。大変光栄です。私は昔から、写真やWEBデザインに興味があり、漠然と広告・出版関係などの職に就きたいと考えていました。大学に入学した当初は、写真やデザインの技術習得に力をいれて、学内外問わず写真やデザインのサークルに入り様々な活動をして、成績の方はあまり気にせず学業よりもこうした活動に重点を置こうと思っていました。

しかし、学業にも手を抜かないようにと考えを改めさせられる機会がありました。それは、デザイン関連の雑誌を読んでいたときに、売れるデザインについて書かれていたページを見つけたことです。そこにはデザイン関連業界における仕事についての現状が書かれていて、コストをふまえた上でのデザイン、競争優位を得るための手段としてのデザインなど、経済・経営に関するようなキーワードがありました。そこで、経済・経営について学ぶことによって自分の考えの幅を広げられるのではないかと考えました。また、ちょうどその頃、駒澤会の奨学金について偶然知り得たのでこれを目標に努力してみようと思いました。

そして、実際に奨学生に選ばれるとは思っていなかったので選ばれたときは本当に嬉しかったです。デザイン関連で用いる非常に高価なソフトウェアやそれについての書籍を奨学金で買うことができました。また、将来的には専門学校で行われている講座を受けるときや、DTP検定などの資格を取ることに奨学金を充てようと考えています。

現在、私は写真部に所属していて、そこではソフトウェアを用いて写真部の広告をつくったり、自分の撮った写真をパソコンに取り込んで、自分の思ったとおりの色調に加工して作品を仕上げ写真展に出したりしています。また、私の所属している百田ゼミでは、経済学部60周年を迎えるにあたり記念グッズの制作を担当することになり、私はそのデザインに携わることができました。これも、デザインをつくるソフトウェアがなければその活動に携わることはなかったと思います。今後も、様々な活動に対して積極的に取り組み、大学生活を充実したものにしていきたいと思っております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

本年度（平成 21 年）、駒澤会賛助会員及び維持会員に新規ご入会手続きをして頂きましたご父母の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

この会報誌『駒澤会だより』は維持会員の方々に駒澤会の現況や活動報告をメインに大学の近況等、情報発信の手段として発刊された物ですが、平成 21 年度から、ご入会された全ての方々にお目通しして頂く事になりました。皆様から頂きました貴重な入会金が奨学金基金の原資となり、そこから、本年度も在校生 25 名に無事届きました事をご確認頂き、併せてご報告させて頂きました次第です。

維持会員は毎年 5,000 円の維持会費を納入し、様々な活動を行っております。現在 170 名の維持会員が在籍しておりますが、駒澤会は地方支部がないため、活動にご参加される方は東京近郊の方が多いようです。しかし、近年は地方在住の方も維持会員として登録され、行事参加を楽しみに上京される方々がいらっしゃいます。

さて、現時点での新規入会者は 120 名です。昨年同時期に比べ 20 名ほど増加しております。基金につきましては銀行定期預金総額 8,000 万円、証券会社での運用総額約 6,200 万円です。昨年来からの運用益の低迷は解消されていませんが、評価額については若干上がりました。引き続き基金管理委員会で確認・検討をしながら進めてまいりますので、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

基金管理委員会委員長（駒澤会副会長） 井上俊夫

運 用 先	7 月～11 月までの利金	備 考
日興コーディアル証券	1 4 8, 0 0 0 円	104 回・105 回放送債
三菱 UFJ 証券	4 1 0, 0 0 6 円	グローバルソブリンオープン
みずほ銀行	7 0, 6 6 3 円	普通預金・定期預金利息
世田谷信用金庫	2 8, 0 0 0 円	定期預金利息
合 計	6 5 6, 6 6 9 円	



教育後援会との懇親会開催

平成21年7月25日(土)

小田急センチュリーサザンタワー『XENLON』
シェンロン



後列左より千葉教育後援会会長、東條学生部長、峯尾教育後援会副会長、赤堀副会長、田邊厚生部副部長
前列左より磯田会長、飯白教育後援会副会長、村田副会長

教育後援会との懇親会 報告



副会長 井上俊夫

7月25日(土)、新宿・小田急ホテルセンチュリーサザンタワーの中華レストランXENLONにおいて、教育後援会との懇親会が開催されました。今回は総出席者数23名で、教育後援会からは千葉会長はじめ6名の役員の方々、東條学生部長・横山係長様のご出席を頂きました。磯田会長・千葉会長にご挨拶を頂いた後、赤堀副会長の乾杯で懇親会が始まりました。新宿の美しい夜景を見ながら中華料理の円卓を囲み、終始和やかで楽しい会話の中に、駒澤会の活動の一端をご理解頂けたものと思います。この懇親会は、当会が直面している課題のひとつである会員数減の対策として、教育後援会会員の皆様に活動を知って頂き、ひとりでも多くの入会者を確保しようと実施しています。

今後もしろいろな場で、活動を広く伝えて、会員増加のための努力を全員で行うと共に、更に「魅力ある駒澤会」を創るため、皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

祝 関東大学ボクシングリーグ戦

参戦50周年記念式典、盛大に！！

平成21年11月7日(土)
深沢校舎洋館大ホール



広報部 菊地英昭

本学が誇るボクシング部は、関東大学リーグ戦参戦(昭和34年)50周年を迎え、去る11月7日、標記式典が、深沢校舎洋館大ホールに於いて、現役、OB、後援会、その他関係各位大勢の参加の下、盛大に催されました。半世紀に及ぶ栄光の歴史を振り返り、苦難を共にした関係者から熱い、感激のメッセージが送られました。

長年、コーチとして学生たちを指導してこられた村野氏(駒澤会広報部委員)に話を聞きました。「何と云っても、登録校7リーグ、38校の一部リーグ(5校)で、今年度は準優勝に輝き、現役、OBの中からこれまで世界ライト級チャンピオン1名、全日本チャンピオン3名、さらに北京オリンピックにも代表を送り出したことは特筆に値しますネ」

駒大の若手ホープ現役2年の林田君、昨年卒業の清水君をはじめ、現役部員、OBたちの今後の活躍が楽しみです。これからも応援よろしくをお願いします。



秋の日帰り研修会報告

平成 21 年 10 月 3 日 (土)
千賀ノ浦部屋・江戸東京博物館



9:30 浅草駅集合 ~ 千賀ノ浦部屋(台東区橋場 7-76-5)へ朝稽古の見学
~ 11:00 ちゃんこ鍋の昼食 ~ 江戸東京博物館~15:00 解散



秋の日帰り研修会「相撲部屋見学」

厚生部委員 市川よし子

10月3日(土)、駒澤会日帰り研修会が磯田会長以下総勢33名の参加のもと、催されました。今回は総務部の一戸様のご紹介にて、浅草駅近くの「千賀ノ浦部屋」の朝稽古を見学させて頂くと云う事で、日頃ない体験にワクワク気分で集合しました。タクシーに分乗して数分後「千賀ノ浦部屋」に到着。

既に稽古は始まっており、若い力士達が親方の指導のもとに汗を流していました。力士は総勢15名だそうです。怪我や病欠の人もいて稽古をしていたのは10名くらいだったのでしょうか、まだ皆、幕下以下とのこと。親方のお人柄か、今時の若者を大事にしているのか、想像していたより優しい指導に見えました。それでも、間近で見る激しいぶつかり稽古は迫力があり圧倒されました。

「千賀ノ浦部屋」は元々高砂部屋だったところで、一時、錦戸部屋(元水戸泉関)が使用し、平成16年に春日野部屋から独立した千賀ノ浦親方(元関脇 舛田山関)により誕生した歴史のある部屋です。作りも堂々としており、隣は曹洞宗のお寺もあり、下町の風情が漂う場所でした。

稽古の後は、土俵にシートを敷き詰め、力士と16歳の床山さんとでちゃんこの準備。ちゃんこはスープによって何種類も作るそうですが、今回は塩味でした。鳥スープと豚肉や野菜等、沢山の具が入っていてとてもおいしく頂きました。鍋以外にも何種類かの料理もあり、お腹いっぱい、ご馳走になりました。

食事中は親方のお話や、周りに立ってお給仕をしている力士さん達への質問や写真撮影など、和気あいあいのちゃんこ会でした。

親方のお話によると、常に入門者を募集しているそうです。身長170cm以上(体重は忘れましたが太ればいいこと)であれば良いそうで、食住の他に協会から5万円の小遣いと厚生年金も加入だそうです。是非親戚や周りの方にも薦めて下さいとの事です。

他に後援会もあり、年会費1万円と2万円の2種類で、朝稽古やちゃんこ会の特典付。広く大勢の人々に応援して頂くというシステムですので、ぜひご入会を!詳しくはホームページを!との事でした。(宣伝をしてしまいました)

今はまだ関取はいませんが、だんだん強くなっていく若手を応援するという楽しみがある部屋だと思いました。